

特別寄稿

母子分離された母親への 交換ノート導入後の看護師調査

盛岡赤十字病院 産科病棟

山口 恵・笠原 里香・小笠原詩子・黒澤菜穂美

【目 的】

A病院新生児治療室では、平成25年度の看護研究において、児が入院中の母親を対象に質問紙調査と半構成面接を行い、出生直後から母子分離された母親の思いを知ることができた。その結果、交換ノートが母親と看護師間のコミュニケーション手段の一つとなることが示唆され交換ノートを導入した。交換ノート導入後、看護師がどのようなことを感じて使用しているのかを明らかにすることを目的として本研究を行った。

【方 法】

看護師対象に自由回答質問紙調査を実施。記載された内容をカテゴリ分析した。倫理的配慮としてプライバシー保護のため無記名とし、回答した内容は研究の目的以外に使用しないことを説明。

【結 果】

回収率は86.7%。9サブカテゴリから3カテゴリが抽出された。＜看護師としての意見＞は「母親の思いを知ることができる」「看護に繋がる」「コミュニケーションツールになる」「活用してもらおうことへの喜び」、＜看護師が考える母親の思い＞は「入院中の成長の記録になる」「母親が楽しみにしていると思う」、＜運営上の意見＞は「業務の負担にならない」「用紙の強度を図りたい」「記録やカンファレンスに活かしたい」に分類された。

【考 察】

交換ノートは、母親の気持ちを知ることができる一つのコミュニケーション手段となり、看護に繋げることができるかと看護師は考えていた。今後は、交換ノートで得た情報を看護師間で共有し、さらに看護に活かしていきたい。

I. 目 的

地域母子医療センターA病院新生児治療室では、障害を持つ児、母親の不安が強いケース等に対しては入院時から密に関わり、家族の思いが看護計画に反映されている。しかし、前述するケース以外の母親と保育練習内容や退院時期に関する目標共有の不十分さを実感する事例があった。そこで、平成25年度の看護研究においては、児の入院間期を4期に分け、各期に母親へ質問紙調査と面談を行った。その結果、児の状態や成長、母子の関わりによって変化する母親の思いを知ることができた。そのことを受け、質問紙調査と面談に代わる母親と看護師のコミュニケーション手段の一つとして交換ノートを導入した。今回は交換ノート導入後、看護師がどのようなことを感じて交換ノートを使用しているのかを明らかにすることを目的として本研究を行った。

「交換ノート」：内容は、日付、体重、哺乳方法、哺乳量、その日の受け持ち看護師からの情報記載欄、母親の自由記載欄がある。新生児治療室入院時から退院時まで毎日、その日の受け持ち看護師

が記載して母親へ説明し渡す。母親には児の面会時に持参してもらう。退院時は母親へ渡す。

Ⅱ. 方 法

1. 研究期間：平成27年6月～8月
2. 研究対象者：新生児治療室に勤務する看護師15名
3. 研究方法：新生児治療室に勤務する看護師を対象とした、交換ノートを使用しての自由回答質問紙を作成し、質問紙調査を実施した。内容は交換ノートを使用しての意見、感想、要望とした。
4. 分析方法：質問紙に書かれた内容をカテゴリー分析した。
5. 倫理的配慮：質問紙はプライバシー保護のため無記名とし、個人の特定はできないものとし、研究対象者に回答した内容は研究の目的以外に使用しないことを書面にて説明した。

Ⅲ. 結 果

対象者の概要は、新生児治療室に勤務する看護師15名中13名が回答し、回収率は86.7%であった。

9サブカテゴリーから3カテゴリーが得られた。

【 】カテゴリー、〈 〉サブカテゴリーとする。

1. 【看護師としての意見】

〈母親の思いを知ることができる〉「交換ノートができて母の気持ちがノートを通して分かる部分もあってよい」、「直接話してもらう以外にも母の思いを聞くことができたりするのでとても良いと思います」、「お母さんの気持ちがノートに表出されていることがあり母の気持ちが理解できよかった」、「スタッフもお母さんたちの思いを感じることができるので今後も継続してやりたいです」、「お母さんたちも口で話すよりも書いたほうが気持ちが表れている気がしました」

〈看護に繋がる〉「母が不安に思っていることを書いている時には一緒に解決できていいなと思いま

す」、「自宅などかかわることができないところでの母の思いを知る機会になり、援助につながれることがあるので良いと感じる」、「メモ欄に母からの記載があり、母が今どのような思いでいるのか看護をしていく上でとても役立っている」

〈コミュニケーションツールになる〉「あまりスタッフへ積極的に話をしない母でも、児への思いや心配事など書いている時が多く大切なコミュニケーションの手段だなと思いました」、「母とのコミュニケーションがとれるいいツールだと思います」、「交換ノートを通してコミュニケーションがとれるのでとてもいいツールになっていると思います」、「お母さんとのコミュニケーションとなる」

〈活用してもらうことへの喜び〉「ママたちがいつも書いてくれるのでこっちとしても嬉しいです」、「母も交換ノートをテープで最後にデコレーションして保存していたり、大事にしてくれる感じが分かりうれしくなることがあってよかった」

2. 【看護師が考える母親の思い】

〈入院中の成長の記録になる〉「毎日持ってきてくれるので子の記録になっていると思います」、「宝物になるし、後から見ることもできるし、ママたちもうれしいのでは」、「NCUに入院した記念になってくれるとうれしいなと思っています」

〈母親が楽しみにしていると思う〉「お母さんたちも楽しみに目を通していいと思います」、「ママたちも楽しみにしていると思います」

3. 【運営上の意見】

〈業務の負担にならない〉「記入スペースもちょうどよいと思う」、「持ってきてその場で書くことが多いのでスタッフのコメントも今のスペースで良いと思います」、「スタッフからのコメント欄を書くのも全然苦じゃない」

〈用紙の強度を図りたい〉「コスト面もあるけれど、よれよれになってしまうので今後検討が必要かと思っています」、「所々フリースペースを作れ

ば、写真をあとから貼ったりしてすてきなアルバムになりそう」、**「ファイルに入れているママとかはいいけど、そうでないとよれよれになってくるのが難点かなと」**、**「お母さん自身がノートをクリアケースに入れてくることもあります、ボロボロになっていると申し訳なく思います」**

<記録やカンファレンスに活かしたい> **「ママのコメントに共有したい内容が書かれていることもあるので電子カルテに残せれば、と思います、カンファレンスしたりとか」**

IV. 考 察

【看護師としての意見】では、「直接話してもらい以外にも母の思いを聞くことができたりするのでとても良いと思います」ということから、面会時の看護師と母親の関わりの中で母親が直接言うことができなかつたことを文字にすることで表現することができ、看護師はそれを知ることができている。そして、「あまりスタッフへ積極的に話をしない母でも、児への思いや心配事など書いている時が多く大切なコミュニケーションの手段だと思いました」ということから、ノートを通して思いを伝え、それを看護師が受け止めるという部分で看護師と母親のコミュニケーションツールの一部となっていると感じることができていた。さらに、「自宅など関わることをできないところでの母の思いを知る機会になり、援助につなげられることがあるのでよいと感じる」ということで、交換ノートにて情報収集し、母親の思いを看護に繋げられると考えることができていた。

「ママたちがいつも書いてくれるのでうれしいです」ということから、母親が活用していることで看護師が喜びを感じ、看護をする上での励みとなっていると考えられた。

【看護師が考える母親の思い】には、「毎日持ってきてくれるので子の記録になっていると思います」、「宝物になるし、後から見ることできるし、ママたちもうれしいのでは」という考えがあり、母の立場になって考えると児の日々の記録によ

り、後に振り返る事ができる成長の記録となると考えていた。また、母親が楽しみにしながら使用していると実感しながら取り組んでいることが分かった。

【運営上の意見】では、「持ってきてその場で書くことが多いのでスタッフのコメントも今のスペースで良いと思います」、「スタッフからのコメント欄を書くのも全然苦じゃない」という意見から、交換ノートの記載、説明の作業について、看護師は業務の負担とならずに取り組むことができている。

改善点として「コスト面もあるけれど、よれよれになってしまうので今後検討が必要かと思います」という意見があり、現在の紙の交換ノートは長期になるほど劣化しやすいものであるため、コスト面を考慮しながら形態の再検討が必要であると考え。また、「ママのコメントに共有したい内容が書かれていることもあるので電子カルテに残せればと思います」という意見もあり、交換ノートで知りえることができた母親の思いを交換ノートのみに留めずに、日々のカンファレンスで情報を共有し看護介入の検討を行うことで、その後の看護に有効に活用していく必要があると考える。

今回は新生児治療室の看護師を対象とした調査を行ったが、母親を対象とした調査を行い、交換ノートを使用しての母親の考えやその効果、看護師と母親の思いの差異はないかを明らかにすることでさらに効果的に活用していくことができると考えるため、今後の課題としたい。

V. 結 論

交換ノートは、母親の気持ちを知ることができ一つのコミュニケーション手段となり、看護に繋げることができると看護師は考えていた。今後は、交換ノートで得た情報を看護師間で共有し、さらに看護に活かしていきたい。

(第56回 日本母性衛生学会総会 平成27年10月16日 発表)